

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 2 区分

【発行日】令和 3 年 7 月 26 日 (2021.7.26)

【公開番号】特開 2020-80393 (P2020-80393A)

【公開日】令和 2 年 5 月 28 日 (2020.5.28)

【年通号数】公開・登録公報 2020-021

【出願番号】特願 2018-213781 (P2018-213781)

【国際特許分類】

H 0 1 F 37/00 (2006.01)

H 0 1 F 27/06 (2006.01)

【F I】

H 0 1 F 37/00 M

H 0 1 F 37/00 T

H 0 1 F 37/00 S

H 0 1 F 37/00 J

H 0 1 F 27/06

H 0 1 F 37/00 G

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 6 月 1 日 (2021.6.1)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 8 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 8 1】

第一端面部材 4 1 と第二端面部材 4 2 におけるコイル 2 側の面には、各巻回部 2 1、2 2 の端面の傾斜に沿った傾斜面が形成されている。各傾斜面は、各巻回部 2 1、2 2 の端面と面接触する。第一端面部材 4 1 の上記傾斜面は、貫通孔 4 3 の周囲を全周に囲むように矩形の環状に形成されている。第二端面部材 4 2 の上記傾斜面は、貫通孔 4 3 の周囲の 3 方を囲むように U 字状に形成されている。第一端面部材 4 1 と第二端面部材 4 2 における外側コア部 3 3 側の面には、外側コア部 3 3 を嵌め込むための一つの凹部 4 4 が形成されている。第二端面部材 4 2 の長辺部 5 2 2 側の面には、コイル 2 の接続部 2 3 が収納される収納部 4 5 が形成されている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 8 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 8 8】

《実施形態 2》

〔リアクトル〕

図 3 を参照して、実施形態 2 に係るリアクトル 1 B を説明する。実施形態 2 に係るリアクトル 1 B は、組合体 1 0 をケース 5 の底板部 5 1 に固定する接着層 9 を有する点が、実施形態 1 に係るリアクトル 1 A と相違する。以下、相違点を中心に説明し、同様の構成については説明を省略する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 9 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0091】

接着層9の材質は、絶縁性樹脂が挙げられる。そうすれば、下方側の巻回部21とケース5との絶縁性を高められる。絶縁性樹脂は、熱硬化性樹脂や熱可塑性樹脂が挙げられる。熱硬化性樹脂は、例えば、エポキシ樹脂、シリコン樹脂、不飽和ポリエステルなどが挙げられる。熱可塑性樹脂は、例えば、PPS樹脂、LCPなどが挙げられる。絶縁性樹脂には、上述のセラミックスフィラーなどを含有することが好ましい。接着層9の放熱性を高め易いからである。接着層9の熱伝導率は、高いほど好ましい。下方側の巻回部21の熱をケース5に伝達させ易いからである。接着層9の熱伝導率は、例えば、 $0.3\text{ W/m}\cdot\text{K}$ 以上が好ましく、更に $1\text{ W/m}\cdot\text{K}$ 以上が好ましく、特に $2\text{ W/m}\cdot\text{K}$ 以上が好ましい。